

マルヤス岡崎蹴球新聞

発行人
スタジオ井
芸人
イケザえもん
@ikezaemon01



響く明るい声援に
不安は消える 笑みも咲く

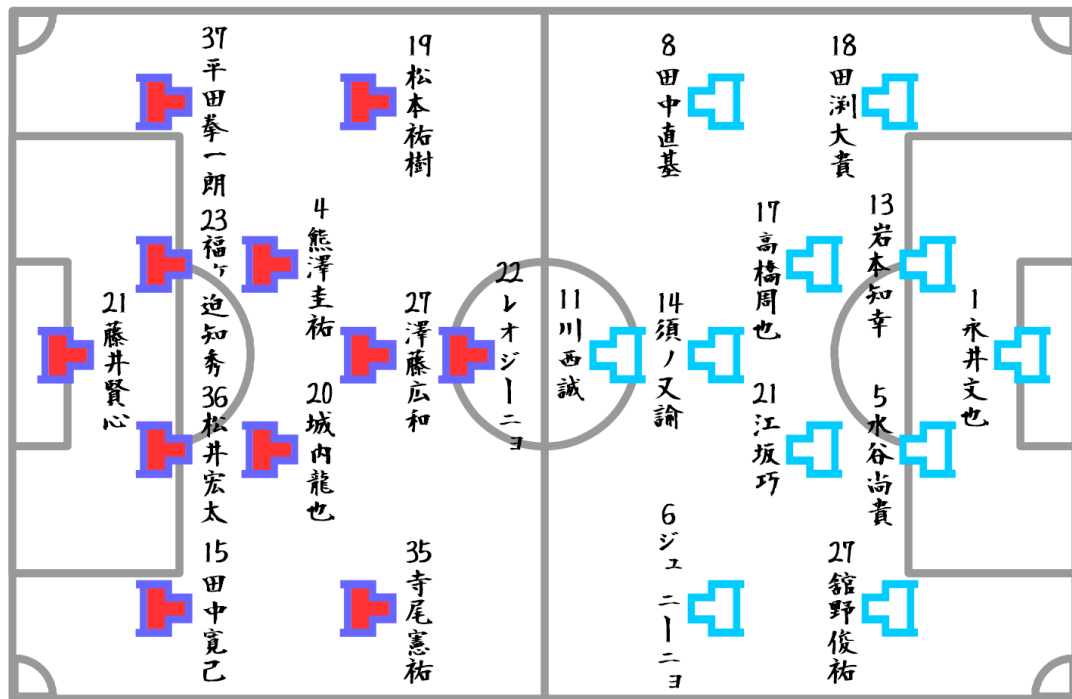
第19回 JFL セカンドステージ第5節
FCマルヤス岡崎 対 FC大阪



FC大阪

【本拠地】摂津国 大阪市【監督】和田 治雄
セカンドステージ 1勝1分2敗 勝ち点4

10位



蹴球合戦 予想布陣図 (FCマルヤス岡崎蔵)

[会場]名古屋市港サッカー場 [ボールパーソン]東海学園高校

【試合運営へのご協力を賜り誠にありがとうございます】

【本拠地】三河国 岡崎市【監督】大江 基允
セカンドステージ 0勝1分3敗 勝ち点1

15位



FCマルヤス岡崎

FC大阪チーム紹介

第三の男

古い上衣よさようなら。中断期間を経て久々のリーグ戦を迎える。残留争いから抜け出せず苦しい状況が続くマルヤスだが、練習試合などで培った経験をきっかけに良い形で再スタートを切りたい。今までのイメージを脱ぎ捨て、新たに生まれ変わることを期待しよう。FC大阪はセカンドステージに入り足踏みが続く。ここ3試合で計7失点を喫し白星から遠ざかっていく。だがファーストステージ3位の實力はこんなものではないはず。破壊力のある攻撃陣を活かすため、守備を立て直し久々の勝ち点3を狙う。ホーム港は我らのピッチ。虎や狼も怖くない。通いなれたこのスタジアム声を送れば心も通う。広いスタンド見渡せば可愛いくぼのあの子も見てる。笑顔の花を咲かせるために勝つ。喜び届けよう。白く輝く愛しいあの星、この手に収め皆に贈る。青い芝生に歓喜を呼んで勝利の音色を響かせよ。赤い我らに鐘が鳴る。

赤い我らに鐘が鳴る
ー今節の展望ー

願離穢土
欣求浄土

大阪では3チーム目となるJリーグ参入を目指すクラブ。チームカラーは鮮やかなブルー。公式ウェブサイトの選手情報に非常に充実しているのも特徴。牧野修造選手は尊敬する人物としてマルヤスの北村隆二選手を挙げている。豊川市出身で愛産大三河高校OBの近藤岳選手の特技は大金持ちのフリ。

徳川家康と鯉

これぞ
三河
武士

FC大阪のチームマスコットは鯉の「コイ坊」である。大阪を流れる大川には大きな鯉が生息しており、それが由来となっている。大川は1メートルを超える巨大な鯉が釣れることもある絶好の釣り場だ。今日はその鯉と徳川家康にまつわる逸話をご紹介します。

家康が岡崎を居城としていた頃の話である。岡崎城の堀で魚を釣る者や禁猟区で鳥を取る者が相次ぎ、家康は彼らを牢に閉じ込めた。いずれ処刑するつもりであったが、それを見つ間に再び事件が起こる。家康が大切に飼っていた3匹の鯉のうち、最も大きな1匹が姿を消したのだ。これに激怒した家康が番人を問いただすと、犯人は家臣の鈴木久三郎であることが発覚する。なんと久三郎は、織田信長から贈られた酒とともにこの鯉を食べてしまったのだ。

家康は久三郎の処刑を決断。自ら刀を握り久三郎を呼びつける。これに対し久三郎は「魚や鳥のために人の命を奪うとはなんと愚かな。殿を見損ないました」「魚や鳥を人に替えて天下が取れるか」と言い放ち、潔くその首を差し出そうとした。この言葉に心を打たれた家康は久三郎を許し、堀で魚を釣った者と禁猟区で鳥を取った者も無罪放免で牢から解放された。久三郎の命を賭した諫言が実を結んだのである。

三方ヶ原の戦いでは撤退する家康の身代わりとして敵陣に突入した久三郎。命と引き換えにしてでも主君を守ろうとする姿勢は三河武士の心意気そのものである。大川をたくましく泳ぐ大きな鯉、そして岡崎城の池を優雅に泳ぐ美しい鯉を見て、忠臣鈴木久三郎と家康公の姿を思い出してほしい。

本日のイベント

十七時
試合開始

【齊藤清美さんミニライブ】

刻 十六時四〇分
於 ピッチサイド

【ケータリングカー出店】

於 スロープ付近
☆黄色いボディーが目印！

【選手とあそぼう企画
野跡夏の陣
「目指せ内藤正成」】

刻 十六時〜十六時五〇分
於 コンコース
☆弓矢を使った射的です

【欲しいグッズアンケート】

於 コンコース

【ハーフタイム抽選会】

刻 ハーフタイム
於 ピッチサイド
☆チケットの半券で
抽選を行います

【監督・マンオブザマッチ
インタビュー】

刻 試合終了後
於 ピッチサイド
☆マルヤス勝利の場合のみ

【選手・スタッフによる
お見送り】

刻 試合終了 五分後から
十分間
於 入場口付近

次回ホームゲーム 9月16日 土曜日

対 ブリオベッカ浦安 於 名古屋市港サッカー場

公式サイト



公式ブログ



facebook



?

